

福祉法人が住民らと連携

農産物 6次産業化

平塚市の施設に通う知的障害者らが6月、農産物の生産から加工、販売までを手掛ける「6次産業」に乗り出す。施設を運営する社会福祉法人だけでなく、地域住民や農協、NPO法人がネットワークをつくって連携し、ジューズやジャムを作って販売。障害者の就労の場を広げるとともに、地元農業の振興も目指す。

(出沼 康男)

障害者働く場広がれ

平塚、ジャムなど作り販売へ

中心となるのは社会福祉法人「進和学園」(同市万田)で、運営する就労支援施設「しんわルネッサンス」(同市上吉沢)が実施主体となる。

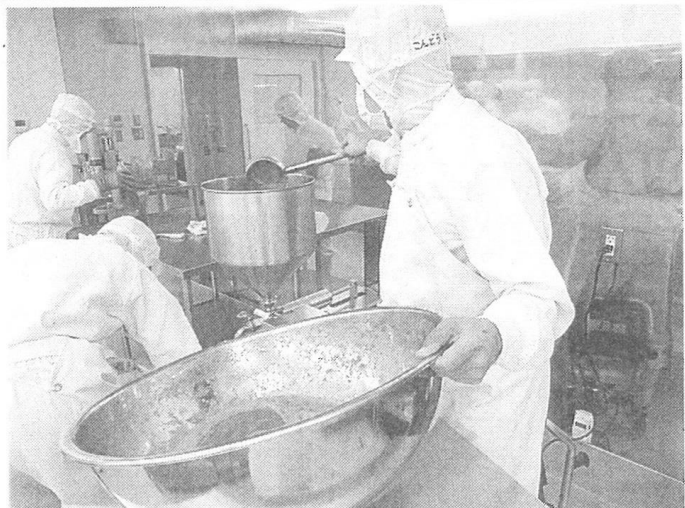
6次産業化・地産地消法に基づく農林水産省の総合化事業計画に2013年10月、認定された。同省によると、全国の認定事業は1800件超あるが、社会福祉法人は6件だけで、農業振興課によると県内では初めてのケース。6次産業化のネットワーク化活動として県からの補助金交付第1号でもある。

障害者の働く場を一層広

げ、地域の農業を活性化する方法として、各団体が得意分野で連携するネットワークでの6次産業化を実現した。

原材料は、ルネッサンスで障害者が育てているトマトやニンジン、ブルーベリーをはじめ、同施設の地元住民組織や地元農家、近隣の農協が提供する。加工は、ルネッサンス1階部分を改修した加工場で障害者が担う。製品は、コンサルタントを務めるNPO法人「湘南スタイル」(茅ヶ崎市)のブランド「湘南工房」を冠して流通させる。

販売は農協の大型直売所



加工場で試作品をつくる障害者たち＝平塚市上吉沢の「しんわルネッサンス」(進和学園提供)

や障害者が働く「ともしびショップ」などに加え、これまで進和学園の農産物などを取り扱ってきた市内のスーパリーや飲食店も想定。さらにホテルや土産物店、高速道路サービスエリアなどへの販路拡大も目指す。6月から順次、出荷を始めるが、同学園によると、加工場では現在、障害者10人が働いており、事業拡大させて「5年後に就労者を30人ぐらいたまで増やした

い」と担当署。

同学園の久保寺一男・統括施設長は、こうした連携で就労の場が広がることについて「地元の農業振興につながる上、ネットワークの役に立っている」ということが、学園利用者たちのやりがいになる」と、事業の意義を話す。「将来的にタマネギのドレッシングなど、いろいろな物を作りた」と意気込んでいる。